

## 選定提案者一覧

### 【タイプA】プロトタイプの実成（上限3,000万円）

- 1 九州大学キャンパス計画室
- 2 大日本コンサルタント株式会社
- 3 東京大学生産技術研究所
- 4 都市構造可視化推進機構
- 5 パナソニック株式会社ライフソリューションズ社
- 6 室蘭工業大学大学院工学系研究科

### 【タイプB】プロトタイプの実成の基礎検討（上限300万円）

- 1 愛知県安城市
- 2 株式会社建設技術研究所
- 3 特定非営利活動法人図的表現活用研究所
- 4 株式会社デジタル・ウント・メア
- 5 名古屋大学大学院環境学研究科
- 6 三重大学地域創生戦略推進室

## 【タイプA】

1. 提案者：九州大学キャンパス計画室  
提案名：地方における学術研究都市構築のための情報共有とシミュレーション-プロトタイプとしての実証実験キャンパス活用  
概要：福岡市及び糸島市を対象として、新キャンパス（九州大学伊都キャンパス）および周辺地域における地理空間情報の一元化を行い、模型＋AR（拡張現実）を活用した「協働型デザインARシステム」を試行・構築する。
  
2. 提案者：大日本コンサルタント株式会社  
提案名：都市再生実現化支援ツール開発(本庄駅北口周辺地区)  
概要：埼玉県本庄市を対象として、中心市街地（駅周辺地区）のにぎわい創出、スポンジ化対策、空き家・空き店舗対策などの総合的な都市再生、まちのリノベーションを推進するシステムを開発する。
  
3. 提案者：東京大学生産技術研究所  
提案名：オープン・クローズデータを駆使した市民協働型の都市の将来像共有ツールの提案  
概要：富山県南砺市や静岡県裾野市等を対象として、地方公共団体に活用されている都市の将来像共有ツールを改良し、「i-都市再生」の技術仕様案（i-UR1.0）への対応を行い、自治体が保有する膨大なデータの利用促進、データ作成コストの縮減、汎用性・拡張性の確保等に配慮したシステムを構築する。

4. 提案者：一般社団法人都市構造可視化推進機構  
提案名：i-都市再生技術仕様案を活用した統計データの可視化と基盤地図提供サービスに関するモデル調査  
概要：日本全国市町村を対象として、全国の統計データ、地形建物データを可視化する基盤を構築し、モデルケースとして自治体の所有する独自データを「i-都市再生」の技術仕様案（i-UR1.0）に変換、可視化する環境を提供する。
  
5. 提案者：パナソニック株式会社ライフソリューションズ社  
提案名：地域学習・学校向けデジタル教育プラットフォーム構築のための「i-都市再生」データの活用・促進  
概要：福岡県宗像市を対象として、地域学習や学校教育で使えるデジタルコンテンツや多用途での利活用を想定したプラットフォーム開発の検討を行うことにより、将来のまちの担い手育成とITによる運営効率化、併せて各所への継続展開を図る。
  
6. 提案者：室蘭工業大学大学院工学系研究科  
提案名：i-UR 1.0(CityGML)を活用したパブリック・アセット・シミュレーター  
の対話型ユーザーインターフェースの開発  
概要：公共施設の再配置による影響などを分析するシミュレーターについて、i-UR 1.0 を活用した対話型ユーザーインターフェースの新規開発により、自治体担当者などが自ら操作できるツールに改良する。北海道室蘭市を対象に開発ツールの試用を行うことにより、操作性・機能性の向上と将来の事業モデルを検討する。

【タイプB】

1. 提案者：愛知県安城市  
提案名：課題×課題を手軽に見える化！可視化データ作成アプリの開発
  
2. 提案者：株式会社建設技術研究所  
提案名：「i-都市再生」の都市計画マスタープラン・交通計画立案への  
実装可能性検討調査
  
3. 提案者：特定非営利活動法人図的表現活用研究所  
提案名：地域活動等の見える化により移住希望者に選ばれる地域へ
  
4. 提案者：株式会社デジタル・ウント・メア  
提案名：横手市多核型コンパクトシティーにおける雪に強いまちづくり基盤
  
5. 提案者：名古屋大学大学院環境学研究科  
提案名：CityGMLに基づく4d-GISによる都市物質ストックの推計
  
6. 提案者：三重大学地域創生戦略推進室  
提案名：災害情報可視化による市民・行政の都市再生・まちづくり意識  
向上調査